

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(東ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成28年1月3日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体が医療法人なので24時間安心して適切な医療が受けられる。また、定期受診も主治医による訪問診療を受けられ、必要に応じて病院への検査も受ける事が出来る。
・盆踊りなどを通じて地域住民と交流する機会を設けている。
・中庭にサクラノボの木を植えており、実がなるのを楽しんだり、畑での野菜栽培、花壇で花を育てることや、駅や博物館への見学外出、敬老会、出前昼食、行事ボランティアの訪問などを取り入れて入居者に一年を通じて楽しんでいただけるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設が建ち並ぶ国道と環状線のほど近くに母体医療法人を中核として、訪問看護ステーション、デイサービスセンター、介護老人福祉施設等の医療・リハビリから在宅介護まで一貫した医療・介護・福祉サービスの提供を行っている中のグループホームです。
中核施設の中に託児所を設置して、職員の就労環境の整備に取り組み、職員の勤続年数も長く、チームワークも良くて継続したケアサービスを提供している。
また、駅前的大型ショッピングセンターやお花見で出かけたり、美瑛や空港へのドライブ、銀座商店街見物や盆踊り参加など戸外に出かける支援や中庭で野菜の栽培や収穫、ボランティアの協力を得て開催するライラック祭りでは、出前寿司での昼食や演奏会など楽しみごとへの支援を行っている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針を各職員室に掲示し、いつでも目に入る環境を作っている。また、日頃から入居者本位の立場の大切さを基本にし、ケアの相談を行っている。	事業所独自の理念をつくり、職員個々が携帯し、申し送りやミーティングで話し合い、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長に協力おあおぎ、勉強会や夏祭りへの参加を呼び掛けてみたり、古紙回収などに参加している。散歩などで顔を合わせた際に挨拶を交わしてる。	古紙回収や清掃事業、お祭り等の地域行事の参加や「ライラック祭り」を開催して地域の人々に参加を呼びかけるなど地域との交流に努めている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会の呼びかけを行ってみたが、まだ成果はあげられていず。運営推進会議や入居の相談時に認知症のことについて伝える事は行っている。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は定期的な開催を行っており、行事の様子や消防訓練の様子などを見てもらい、入居者の様子を見てもらえたり、行事へのアドバイスをもらうなどできている	運営推進会議を年6回を目安に開催して、改正介護保険制度や利用状況などの具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらう事と報告を行う程度で積極的には行えていない。。包括が行う地域密着型施設の打ち合わせ会には今年も参加できている。	市担当者や包括支援センターとは、地域密着会議への出席や日常業務を通じて相談や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束の勉強会を行うなど拘束の無いケアの大切さについては理解しているが、入居者の危険が心配される場合に代替性のない時はやむ終えずベッド柵の使用などをご家族と相談し行うことがある。状況を観察しながら早期にはずせるように検討している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を法人の院内研修や抑制防止委員会を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待の情報に目を向け、スタッフ間で意識を高める事に努めている。また、アンガーマネジメントについての勉強を行い、スタッフの気持ちの整理の仕方などにも取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで知識をつけ、必要性を感じるご家族には伝えるようにしているが、今の所制度の活用までは至っておらず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の説明時に重要事項、利用規定をお互いに見ながら、不明な点などないかを確認するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口の説明と、外部の相談できるところのポスターを掲示している。また、日頃からの会話の中で要望などを聞き出せるようにしている。	毎月たよりを発行して、個々の健康状態や生活や行事参加の様子など情報提供しているとともに来訪時には、意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りや月一度のミーティングの際に意見交換をしたり、管理者と職員の個人面談を行うなどで聞き取りを行い反映させている。	福利厚生の実施に取り組み、職員の離職は少なく、勤続年数が長く、安定したサービスを提供している。また、連絡ノートの活用やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に休み希望を聞く事や、有給を取ることができるため、安心感がある。また、それぞれの得意な事が発揮できるような場面が仕事の中で作れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会を設けている。また、日頃から研修の案内を回覧しお知らせしている。ミーティングの時に勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括の行う永山地域のグループホーム打ち合わせ会に参加し情報交換や交流ができていいる。その情報をホームのスタッフにも伝達している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の際、ご本人ご家族に見学に来ていただき、館内やサービスについて説明し、不安や要望を聞きだし、こちらで出来る対応について伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に再度サービスや館内の利用などの説明を行い不明な点が無いかを確認するようにし、面会時にも定期的に話をすることで不安や要望を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の話し合いや入ってからの感想も聞きながら、リハビリの利用の支援や病院受診の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者の得意な事や好みを考えながら洗濯物干し、たたみ、片づけ、食材を仕分ける、カレンダーめぐりなどをスタッフと一緒にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活状況を伝えるお便りを写真入りで送り生活の様子を知ってもらえるようにしている。また、ケアについての相談や、生活歴の聞きだし、行事への参加を募るなど入居者の状態が見てもらえる環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪を受け入れ、電話や手紙のやり取りも支援している。ご家族のお見舞いの支援も行っている。	友人・知人等が来訪し易い環境づくりや散歩、買い物、自宅訪問等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、食堂の席などを検討している。活動をする際にも声の掛け合いが出来るようスタッフが架け橋となりながら関係が気づけるように取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もいつでも相談に応じる事を伝えるようにし、入院された場合には、病院からの要望に応じ、必要な情報の提供や面会に行くなど関係をつなげる支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や特性を見極めながら、読書や塗り絵、勉強、歩行運動などをしたり、生活ペースもそれぞれの流れを尊重するように心掛けている。	センター方式を活用しながら一人ひとりの意向や希望を把握して、外出やレクリエーション、趣味の活動など本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族への聞き取りや、ご本人とも会話の中から引き出すようにしている。また、今までの利用したサービス事業所などからも聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の好きな過ごし方や、お手伝い、活動の内容やレベルも一緒に行う中で見極めながら、負担が少ないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新や作成時に、ご家族やご本人からの要望を聞く事や、ミーティング時に行うカンファレンスでスタッフと話し合っってプランに取り入れている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意向や要望、医師からの指導や助言、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン連騰できるよう、個別のファイルにケアプランを添付して記録に反映できるようにしたり、かかわりの中で試みた事を残し、プラン更新時に参考にするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診希望者にタクシーの手配をしたり、ご家族が高齢や遠方の方の買い物代行をしている。また、ご家族のお見舞いへの付き添いもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	銀座通り商店街の七夕祭りにくす玉を作成し、見学に出掛けたり、外出行事で旭川駅や博物館へ出かけ、散歩や見学、買い物を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人病院の主治医による訪問診療を定期的に受けることで状況を把握してもらえ、日ごろも看護師を通じて連携が取れている。また、他科受診の際も情報を伝えられるように準備し行えている。	受診は本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。また、母体医療法人との連携や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間に関わらず、看護師に相談することができ、入居者が適切な受診などが受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師をパイプ役とし、主治医や病院との情報交換と共有を行い、早期の退院に向けての支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	体調の変化などで検査をした場合はご家族を呼んで結果を含めた今後予測される事態を説明し、ホームで出来る支援を伝えたり、関係者との連携を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、ノロウィルスの対応などを定期的に勉強会を行い確認し、実際に嘔吐者が出た場合にもすぐに対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行い避難方法について検討している。その際に運営推進会議を行い、地域の方の参加もお願いしている。	地域の人々にも参加を呼びかけて年2回の昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。また、感染症対策や救急救命の訓練も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけはご本人にのみ聞こえる様に配慮したり、日ごろの声かけの仕方も親近感がある方が良い方とそうでは無い方で分ける様にしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。また、勤続年数が長く、スキルの高い職員が多く在籍している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人の気持ちや思いをくみ取り出来るだけご本人の決定に近づくように支援している。思いを表せない方には簡単な選択肢を示して決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	おやつや体操など決まった者の声かけや、得意な事などは促すが、するかどうかの選択はご本人の希望を尊重して決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげそりの支援や、女性にも顔そり、まゆ毛を整えるなどの支援を行っている。一緒に服を選んだり髪が乱れているときには整える。月に一度訪問理容が来てくれ散髪も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取や野菜の皮むきなどの下準備や食材の仕分けを行ってもらったり、食器をならべてもらうなどで食事への興味を持続けてもらえる取り組みを行っている。	出前寿司や中庭の菜園での野菜や果物の収穫、おはぎやおやつ作りなど食事が楽しみなものになるように支援している。また、職員と一緒に盛付けや調理、食事等の準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1200ccを目途に摂れるよう支援している。また、カロリーや塩分、カリウム量などをそれぞれに合わせたバランスになるよう個別の支援ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促し、ご本人に歯磨きや義歯を洗えるセッティングを行い、仕上げが必要な方はこちらでの介助も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの方のサインやパターンを把握し、声掛けをしたり、トイレ時の介助を行っている。すべてを手伝うのではなく、必要な介助におさえる事で羞恥心への配慮も行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛け、誘導等の工夫でトイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼るのではなく、水分の種類に気を付けたり、運動の方法を考える、腹部の温めなどのを行うことで排便が定期的にあるよう取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日や時間帯は決まっていることがほとんどだが、体調や入浴間隔を考慮しながら入浴を楽しんでもらえるように行っている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせてながら週2～3回を目安に柔軟に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活パターンを見ながら入床のタイミングをみて声掛けしたり、日中でも眠そうな様子があればお部屋へ促すなど穏やかに休んでもらえるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版に個々の処方箋を綴じていつでも確認できるようにしている。また、新しい薬が処方された時には内服方法、副作用について確認しスタッフ間で情報共有できるよう申し送っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意な事を分担し、拭き掃除や食事の下準備、洗濯たたみなどを行ってもらっている。誕生会やクリスマス会などの行事で気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から入居者の希望をくみ取り、お花見散歩、駅前イオン、博物館などへの外出を企画し実施している。しかし、入居者の高齢化や身体機能の低下などにより長時間の外出が難しくなっている現状もある。	駅前の大型ショッピングセンターやお花見で出かけたり、美瑛や空港へのドライブ、銀座商店街見物や盆踊り参加など戸外に出かける支援や中庭で野菜の栽培や収穫、ボランティアの協力を得て開催するライラック祭りでは、出前寿司での昼食や演奏会など楽しみごとへの支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おかねの紛失トラブルを避けるため、ホーム内はお預かりさせてもらっているが、本人の希望時や外出の時は好みのものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときには子機を使ってもらうなどゆっくり話せる環境作りをしたり、手紙を出したいという方がいれば書くことなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の明るさや外からの光の調整をこまめに行っている。春～秋は中庭で積んだ花を飾り季節感を取り入れ居心地のいい空間作りに努めている。廊下にソファがあり思いおもいにくつろげるようになっている。	共用空間は、整理整頓がされていて清潔感が漂い、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾り付けなどで季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席の配置もテーブルを分けて置くことで個々の性格や関係性を配慮し、仲良く過ごせる方、一人で過ごしたい方に対応出来るようにしている。廊下にもソファを置きくつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族やお孫さんの写真を飾ることや、使い慣れた物を置く事で居心地の良い工夫と心がけている。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具類等が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており廊下には手すり、トイレ、お風呂、食堂などは看板を作り分かりやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(西ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	H28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体が医療法人なので24時間安心して適切な医療をうけられる。また定期受診も主治医による訪問診療を受け、必要に応じて検査を受ける事もおこなっている。盆踊りや神社祭、夏祭り等の行事を通じて地域住民と交流する機会を設けている。花見や紅葉ドライブなどで季節を感じてもらったり、野菜作り、鏡餅作りなどで、得意な事を生かす機会を作っている。またお祝いの行事ではボランティアの訪問なども取り入れ、ご家族様と一緒に楽しんで頂けるよう取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんがご自身のペースで毎日ゆったりとすごせるよう理念にあげ、それを心掛けた支援を行っている			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で町内会に入っており、運営推進会議や避難訓練の参加、回覧板でホームの行事案内をおねがいでいる。また高齢者文化祭への作品出展や七夕まつりのくす玉作りに参加している			
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でグループホームでの生活の事や認知症のこと、事故防止の対策などを提示し、理解して頂いている			
4		3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			今年度は年間予定を立てて定期開催にむけて取り組んだ。参加者の方から他施設での取り組みの話や、行事などへのアドバイスを聞かせて頂き活かしている
5		4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			それほど密ではないが、必要なことに応じ事故報告やかいぎ、研修での不明点を確認している
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束についての委員会があり、拘束のないケアの重要性や拘束に繋がっているケアは無いのか勉強会や振り返りを行っている			
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料などをいつでも職員が見れるようにしている。研修会に参加し、その内容を会議で報告し全職員が虐待について学ぶ機会を持つようにしている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加した管理者を中心に、必要な方には活用できるように準備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面接や入居契約時などに時間を充分にとり説明し、不明点を残さないようにしている。また入居後も不明点などがあればいつでも聞いてもらえるよう伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日頃の会話の中や、家族の来訪時の話の中で出る要望などを反映している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送りを活用して意見を聞くようにし、取り組めるものから検討し行うようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を見たり、管理者から伝える内容で把握してもらっている。また法人主催の催しで楽しめたり研修でも知識を深める機会がもてている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内を職員全員が見れるよう回覧またはミーティング時に勉強会を行い学習の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の研修会へ参加したり、顔合わせに施設長が参加する等で交流を持っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に会える方は少ないので、ケースワーカーやご家族より情報を得よう努め、入居直後にもじっくりと話を聞くよう心がけている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学の際に、話が出来る場を設けている 不安や分からない事があれば、いつでも連絡がもらえるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談しあう中で、ニーズを把握し、提供できるサービスを提案し、進めるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや畑仕事等、日常生活の中で知恵を教えて頂いたり、助けて頂いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に在宅中の様子を聞いたり、ホームでの様子を伝えるようにしている 家族の希望やホームでの現状を理解し合えるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域へのドライブや買い物等、馴染みの場所や人とふれ合えるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席等に配慮すると共に、利用者同士で楽しめる活動を考え、コミュニケーションがとれるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の訪問も快く迎えている 又、移った施設への情報提供を行い新しい場所でも安定した生活が出来るよう支援している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向に沿えるよう、個別の趣味活動や生活リズムを大切にしよう心がけている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や、入所後は家族から生活歴を教えてもらうなど把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の好みや能力などを把握し、活動内容や時間を考慮して対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフ同士で話し合いをして体調の留意点や生活上必要なポイントを取り入れ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に取り組んだ結果等を記録して、毎日ミーティングや普段から職員間で工夫したいことなど話し合い継続したケアが出来る努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人病院と連携しニーズに合わせたサービスや往診・検査・リハビリが受けられるよう対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にボランティアの方に来て頂いたり、地域の七夕祭りや高齢者文化祭に作品を出品し参加させて頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院と連携をとり隔週で往診を受けている担当看護師も毎日利用者の体調を確認し、急変時にもスムーズに対応できている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で担当看護師が毎日来てくれ、日々の状態観察や健康管理、主治医との連携を図ってくれるため必要時に迅速に対応できている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や入院機関と情報交換・話し合いを行い退院後の体制について検討するなど適切に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族に24時間体制で病院と連絡をとれることを入所時に説明、重症化した時にもご本人や家族・病院と話し合い対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って対応できるよう勉強会をしている 急変時は病院と連携を取り、指示を仰ぎ対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練があり、利用者にも参加してもらい実際に避難動作を行っている 又、その後のミーティングで反省点や改善点などを話し合っている		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活環境を踏まえて、声掛けを工夫したり、プライバシーに関する話は居室などで個別に対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の心情や移行を理解し、個々に合わせた声の掛け方や話やすい環境を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の体調や気持ちを考慮し、それぞれの生活ペースに合わせて活動や休憩時間が過ごせるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣服の入れ替えを行い、手・足の爪切り・耳掃除を入浴後等にチェックしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの彩りや盛り付けなど食事が楽しみになるよう心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスなど一人ひとりの状態など見ながら支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて介助の必要な方にはその都度対応している 定期的に洗浄剤にて消毒もするようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付けることにより排泄パターンを把握し、尿意サインを見逃さないように努め、排泄の失敗時にも羞恥心や自尊心に配慮を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、起きがけに冷水や牛乳の摂取で様子をみて、それでも排便ない時には、状態に応じて便秘薬内服で排便を促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	体調や状況、又個人の気持ちも考慮しながら、都度、時間や曜日を変更して対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具などにより体温調節をし、一人ひとりの状況に応じて安心して休息できる環境作りに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋には都度目を通すようにし、看護師やスタッフに用法・副作用などの説明を受け、話をし確認に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きなど、出来る事をお手伝いして頂き、張り合いのある生活が出来るよう心掛けている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調などを考慮し、外気浴・買い物・ドライブなどできるだけ出掛けられるよう心掛けている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っている 外出時はお金を支払って自分で好きな物を選ぶ楽しみを持てるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話を利用して頂いている 手紙の場合には宛て名書き・切手購入・発送時の出助けを行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・食堂の壁などを利用し、季節を感じられるよう利用者の作成した展示物や行事で写した写真など掲示している 各居室・トイレ・浴室などには札を貼り、利用者の分かりやすいようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子や中庭のベンチなど、利用者のくつろげる環境作りに心掛けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者や御家族の意向を考慮し、使い慣れた物を置いたり生活しやすい空間作りに心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており手すりも完備され、安全に配慮された構造にはなっているが、利用者の状況に対応できる介助が出来るよう心掛けている		

(別紙4－2)

目標達成計画

事業所名グループホームライラック

作成日：平成 28年 1月 28日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	3	近隣地域とのつながりがまだ少なく、今後増やしていきたい	少しずつ近隣地域にグループホームについて知ってもらい機会を作る	・町内会行事への参加～古紙回収、ゴミ拾い、運動会など ・ライラックの行事や、勉強会への参加を募る。 ・回覧板にライラックの行事の様子や生活の様子などを知らせるものを入れてもらう	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。